

第 4 学年の実践

1. 主題名 思いやりとは B (6) 親切, 思いやり
2. ねらい 相手の気持ちを察して、進んで親切にしようとする判断力を育てる。
3. 教材名 『『思いやり』って』(光村図書「きみがいちばんひかるとき」4)
4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

自分のことばかり考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べるだけでなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

児童は、より多くの友達と関わるようになってきている。その関わりの中で相手の置かれた状況や表情等から、相手の心情も理解できるようになってきている。また、困っている人には親切にするとよいことも知っているので、多くの児童は何らかの形で親切と思われる行動をこれまでも取ってきた。一方、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思込みがちになることもある。本当に相手がしてほしいと思っていることは何かと思いを巡らす体験をし、「思いやり」について考えて、それを実行していこうとする判断力を育てたい。

(3) 教材について

「わたし」は、腕の骨を折った夏実を助け、夏実もお礼を言う。腕が治ってきて、「わたし」は、自分でやろうとしてもうまくできない夏実を助けるが、夏実は、自分でやりたいと考えていて悲しい顔をする。数日後、「わたし」は、手伝ってほしいかどうか夏実に聞き、自分でやりたいと言う夏実を見守る。

困っている人や障害のある人たちに対し、「してあげる」意識で親切にすることはありがちである。教材を通して、夏実の立場に立った気持ちを考えさせることで、押し付けやおせっかいなどのような自己満足ではない、思いやりに気付くようにしたい。

5. 教材分析

話のすじ	「わたし」の心の動き	気付かせたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・夏実が腕にけがをして学校に登校してくる。 ・みんなで手分けして夏実さんを助けてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の席だから夏実さんを助けてあげなくちゃ。 ・お礼を言われ、うれしい。 ・先生にほめられていい気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏実が不自由そうなので、手助けしたい「わたし」の気持ち。 ・感謝されたり、ほめられたりした時の満足げな気持ち。

<ul style="list-style-type: none"> ・夏実のけがが少し治り、指が自由に動かせるようになった。 ・夏実が自分でプリントを折っているがぎこちないので、わたしは助けてあげた。小さい声で「ありがとう」と言っていて、なんだか悲しそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ治っていないだから助けてあげなくちゃ。きつともっと喜んでもらえる。 ・助けてあげたのに夏実が悲しそうなのはなんでだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏実のためにいいことをしているのだという気持ち。 ・まだ治っていないだから助けてあげなくちゃという「わたし」の気持ち。 ・悲しそうな様子の夏実に気付いた「わたし」の気持ち。
<ul style="list-style-type: none"> ・手をかばいながら机を運ぶ夏実に、わたしは自分でやりたいか尋ねる。すると夏実は自分でやりたいと答える。 ・運び終わった夏実の明るい表情にうれしくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手伝いたいけど、昨日は悲しそうな顔をしていたな。 ・表情にはその人の気持ちが表れるんだな。 ・夏実は本当は自分でやりたいんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の助けてあげたいという気持ちだけでなく、相手の表情などから相手の気持ちに寄り添うこと大切だと気付いた「わたし」の気持ち。

6. 主体的・対話的で深い学びにせまるための工夫

(1) 問題意識をもたせるために

①導入と教材での「思いやり」の差

導入で「思いやりのある人とは」と問う。児童は、「困っている人を助けてあげる人」「泣いている人をなぐさめてあげる人」などと挙げることが予想される。しかし、教材の前半では、そのような行動をとっていた「わたし」は、中盤では夏実に悲しい顔をされ、後半では、あえて手を貸さず、声をかけて見守るという選択をする。そこで、中盤や後半での「わたし」の行動と、導入で挙げられた思いやりとを比較させ、改めて「思いやりって何だろう」と考えられるようにしたい。

②導入の問いを再度考えさせる

導入では、「思いやりのある人」とは、目に見える手助けをできる人と考えていた児童も、教材と話し合いを通して再度考えることで、「思いやりのある人」とは、相手の置かれた状況や顔の表情等から、心情を推し量り、適切な心配りをすることであり、それが足りなければ「冷たい」になり、過ぎれば「おせっかい」になることに気付かせる。(言葉にはこだわらないようにする。) また、その適切さは人それぞれであることについても考えさせたい。

7. 本時の学習

(1) 本時のねらい

骨折した友達に手を貸そうとする「わたし」の姿を通して、思いやりとは、どんなものかについて考え、相手の気持ちを察して、進んで親切にしようとする判断力を育てる。

(2) 本時の評価の視点



<多面的・多角的に考える>

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を、様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。

<自己を見つめる>

- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。

(3) 展開

<p>学習活動</p> <p>(○基本発問 ◎中心発問 ・実際の児童の反応)</p>	<p>・支援と留意点 *発問の意図 ☆評価の視点</p>
<p>1. 「思いやりのある人」とは、どんな人かを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「思いやりのある人」とは、どんな人だろう。</p> </div> <p>○「思いやりのある人」とは、どんな人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が困っていたら助けてあげる人 ・お手伝いができる人 ・ゆずり合いのできる人 ・けがをしている人を助ける人 ・自分の気持ちだけでなく、相手のことも考えられる人 ・みんなのことに気を使える人 ・勇気のある人、自信のある人 ・がんばってくれる人  <p>2. 教材を読んで話し合う。</p> <p>○それぞれの場面での、「わたし」と夏実の行動と気持ちを考えましょう。</p> <p>最初の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」は夏実を助け、「ありがとう」と言われたり、ほめられたりするので、とてもいい気持ち。 ・夏実はみんなに助けてもらえてうれしいと思う。 <p>帰りの会の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」は夏実のためを思ってプリントをたたんだけれど、夏実は悲しそう。 ・夏実は自分でやりたいと思っていた。 ・「わたし」は、相手の気持ちが分かっていない。 <p>昼休みの場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」は、どうしてほしいか聞いて、見守った後、「よかったね。」と声をかけた。夏実の明るい笑顔を見てうれしくなった。 ・夏実は、つくえといすを運び終わるまで見守ってくれたことがうれしかったと思う。 ・「わたし」は、相手の気持ちに気付けた。 	<p>*問題意識を引き出すための布石となる発問であると同時に、本時を貫く言葉となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、目に見える手助けだけでもよい。 ・考えにくい場合には、思いやりを感じる具体的な場面を思い出すよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ここで出た「思いやりのある人」と教材での「わたし」の行動を比較することで、導入時での自分の考えとのずれが生じる。そのずれを話し合わせることで、思いやりについての考えを深めた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面で、どんな思いやりの行動が出てきたかを考えながら読むように伝える。 *夏実に「ありがとう」と言われ、先生もほめてくれているので、「わたし」も夏実もいい気持ちであることに気付かせる。 *夏実の「小さな声で『ありがとう』『なんだか悲しそう』」に着目させ、「わたし」のしたことが、本当に思いやりだったか考えさせる。 ・導入での考えとの違いを意識させる。 *「わたし」は、夏実に対して何もしなかったわけではなく、思いを聞き、見守り、声をかけるという方法で、思いやりの形を表したことに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>問い返しをしながら、手助けしていないのに思いやりなのか、導入で考えた「思いやり」との違いを考えさせた。</p> </div>

◎「思いやりのある人」とは、どんな人だと思いますか。

- ・自分の気持ちではなく、相手がしてほしいことを考えられる人。
- ・相手に言葉をかけて、気持ちを考えられる人。
- ・相手の立場になって考えられる人。



*ねらいにせまるための発問。

☆手助けする、見守るなど、相手に対しての思いやりの表し方は様々であることに気付いている。

導入での考えから変わってもよいこと、話し合いを通して考えが広がったり深まったりすることはよいことを伝えること、考え方は様々であることを伝えた。

3. 自分の生活を振り返る。

○学習の振り返りをしましょう。

- ・これからは、最後の場面の「わたし」のように、相手の気持ちを考えて行動したいです。
- ・助けるときには、自分の気持ちばかりでなく、相手のことも考えるといいんだなと思いました。
- ・いろいろな人にやさしくしたいけど、見た目だけで判断しちゃだめだとわかりました。やさしすぎるのもいけないのかなと思いました。
- ・これからは、相手の立場に立って、困っている人の気持ちをよく考えて助けるようにしたいです。

4. 絵本を紹介する。

○「どんなかんじかなあ」という絵本を紹介します。

- ・目の見えない人の気持ちがわかりそう。
- ・読んでみたいな。



☆これまで相手に対して本当に思いやりのある行動をとっていたかと、自分を見つめている。また、相手の状況や気持ちを察して行動するために、どんなことを大切にすればよいかと考えている。



詳しい解説はせず、本時の学習内容と関連が深い部分のみを簡潔に紹介することで、主体的に学びを継続させようとする気持ちを高めた。

8. 実際の板書

